仙台市中高生向け起業家講師による出前授業

出前授業実施レポート（仙台市立鶴が丘中学校）

【概略】

・仙台市立鶴が丘中学校2年生を対象に、起業家講師による出前授業を実施。

・講師は、株式会社Wasshoi Lab代表取締役グループCEOの齊藤良太さん。

・仙台で育ち、アメリカ留学、富士通・日本マイクロソフトでの勤務を経て、東日本大震災を機に起業した自身のキャリアを紹介。

・「夢がなくても、目の前のことに全力で取り組めばいい」、「失敗は成長するための栄養剤」と語り、多くの「時間という可能性」を持つ中学生に、恐れず挑戦し続けることの大切さを伝えた。



2026年9月28日、仙台市立鶴が丘中学校において、起業家講師による出前授業を実施しました。今回講師を務めたのは、株式会社Wasshoi Lab代表取締役グループCEOの齊藤良太さん。仙台市出身で、市内の中学校・高校を卒業後にアメリカへ留学。帰国後は富士通・日本マイクロソフトでの勤務を経て起業し、現在は地域活性化に関わる事業を多角的に展開しています。

今回の出前授業では、齊藤さん自身の生い立ちやキャリアの歩みをもとに、「仕事とは何か」、「起業家とはどんな人なのか」、「自分らしい未来をどう作っていくのか」について、生徒たちへ向けて熱いメッセージが送られました。

自分で新たな仕事を作り出す起業

職場体験の事前学習として企画された今回の出前授業。「生徒たちにもっと広い視野で将来を考え、自らの可能性を広げてほしい」と考えた先生方は出前授業に応募し、グローバルや海外経験について語れる起業家講師を希望しました。そこで仙台市出身で高校卒業後にアメリカの学校に進学した齊藤さんが講師を務めました。



講話の冒頭、「将来、どんな仕事をしたいですか?」と問いかけた齊藤さん。齊藤さん自身、仙台市内の八木山中学校で中学時代を過ごしましたが、中学生の頃から明確な夢があったわけではありませんでした。だからこそ強調したのが、**「今、目の前にあることに一生懸命取り組むこと」**の大切さです。

「ゲームが好きならそのゲームで世界一を目指すのだって素晴らしい。好きなことや興味を持ったことを徹底的にやってみよう」

「目の前のことに全力投球してきた経験は、あとになって『点と点』でつながり、自分だけの仕事や夢に変わっていく。無理に夢を探そうとする必要はなく、まずは興味のあることに挑戦し続ける積み重ねこそが、自分の未来を作る」と齊藤さんは語りました。

続いて、齊藤さん自身も会社員として勤めた後に起業した経験から、「起業家と会社員の違い」について触れました。会社員は会社から給料をもらい、会社のルールに従い、与えられた役割を通して社会に貢献します。一方、起業家は「世の中や誰かの役に立つこと」を前提に自ら事業を起こし、ルールを作り、自力で対価を得て仲間とともに未来を切り拓いていく人だと紹介。「**自分がやりたい仕事がなければ作ればいいし、新しく仕事を生み出すのが起業**」と話しました。



起業にはリスクも伴います。しかし、齊藤さんは「挑戦と失敗はセットであり、失敗は成長するための栄養剤」だと考えています。剣を刺したらキャラクターが飛び出す「黒ひげ危機一発」のゲームを例に挙げ、「悩んで剣を刺しても、すぐに剣を刺しても結果は同じ。**悩み続けるよりも、まずは行動して試してみることが大切。もし失敗しても、何度でも再挑戦すればいい**」と語り、失敗を恐れて立ち止まるのではなく、挑戦し続けることの価値を生徒たちに伝えました。

震災を機に考えた「自分の命をどう使うか」

齊藤さんのキャリアにおける決定的な転機となったのが、2011年3月11日に起こった東日本大震災です。



当時、齊藤さんは日本マイクロソフトの東京本社に勤務していましたが、たまたま宮城県石巻市に出張しており、地元宮城で震災を経験しました。「自分はこれからどう命を使うべきか」、「地元の東北・地域の人たちのために何ができるのか」と真剣に自身の思いと向き合った結果、会社を退職して起業する決断をしました。

現在は農業、商品開発、教育、人材、観光など多岐にわたる事業を展開しています。幾度もの失敗や逆境を乗り越えられたのは、周りに助けてくれる仲間や人々がいたからであり、感謝の気持ちとともに挑戦を続けています。

「時間は可能性」中学生へのメッセージ

齊藤さんが特に強調したのが、「時間は可能性」ということです。大人になると時間はあっという間に過ぎ去り、体力の衰えや健康上の課題も出てきます。一方で、13～15歳の中学生には、大人よりもはるかに多くの「時間という可能性」が残されています。

「時間は有限であり、人間はいつか必ず死にます。皆さんは僕よりも30年も多くの時間を持っています。だからこそ、若いうちにたくさんのことに挑戦し、早く失敗を経験してほしい」

目の前の勉強、部活動、課外活動など、興味があることに恐れず飛び込んで失敗を重ねることが、人生を豊かにする経験になると語りかけました。今回の講話を通じて齊藤さんが伝えたかったのは、「自分は何に情熱を傾けたいのか」、「限られた時間と命を何のために使いたいのか」と自分自身に問い、未来と向き合うことの大切さでした。

齊藤さんの力強い言葉を受け取った生徒からは「失敗の大事さを知ったので、失敗したからこそ次につなげるための材料ができたと前を向いていきたい」などの感想がありました。「失敗を繰り返すことで成功に変わるという言葉を聞いて、希望や自信が持てました」と、これまで失敗への不安を理由に諦めていた経験を振り返り、前向きに捉え直す生徒もいました。

また、講話をきっかけに、自分の将来や進路について考え始めた生徒もいました。「実際の起業体験を聞いて、自分のやりたいことが少し明確になってきたような気がします」、「今後の職業の調べ学習や自分の進路について、どんなことをしたいか、詳しく探してみたい」という感想も見られました。今回の出前授業は、起業とは何かを学ぶだけでなく、これから大人になっていく生徒たちにとって、自分らしいキャリアや生き方を選択するための力をもらった時間となりました。